



「三島村教育研究大会に向けて」

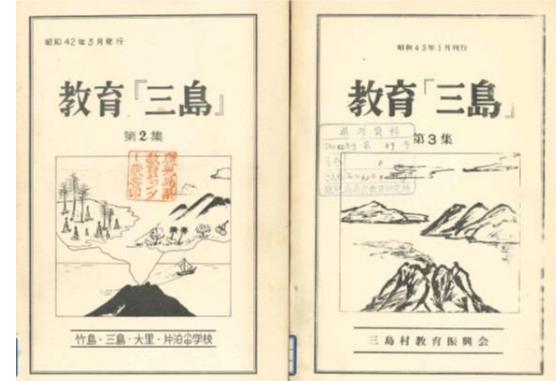
校長 濱畠 昭成

今年も8月9日(金曜日)に三島村全校の先生方が集い、研修を一同で会する。この三島ならではである。日頃研修を積む機会が少なく、隣の学校といえども知り合う機会がほとんどない。そういう意味からか年に一回、三島四小中学校が揃って出会う機会が「三島村教育研究大会」である。

この教育研究大会のこれまでの経緯について調べてみると、村教育研究会が昭和41年10月に片泊で行われている。

同時に三島村教育振興会が発足、それから毎年行われ今回で55回目になる。それと共に振興会の教育誌「教育三島」も継続している。初刊の頃の鉄筆の跡からは、三島の教育力の向上や教師の共同体制の必要性が力強くうかがえる。子どもを思う気持ち、島を思う気持ちがヒシヒシと力強く伝わってくる。黒島を舞台にした映画「私は忘れない」の上映された頃であろう。テレビが普及しようとしていた頃である。島民と共に学校が生きている状況が見えてくる。島にとって学校の存在がどれほど重要であるか痛感する。今を生きている私たちも先輩が残された教育愛を受け継ぎ、次代を担う子ども達に伝える必要がある。

今回は、義務教育化に向けた取り組みがテーマである。これまでの想いを引き継ぎながら新たな三島村の教育の創造に努めていきたい。



鹿児島県総合教育センター所蔵

<水泳大会～皆さんのおかげで笑顔のしぶきが舞いました～>

長雨の合間を縫って、水泳大会を行うことができました！(日頃の行いが良いのでしょう) 泳力には大きな差がありますが、自分の目標に向かって練習した成果を出し切ることができました。保護者の皆さんがあなれてくれる中、小学校1、2年生も大プールで泳いだり騎馬戦に参加したり、笑顔いっぱいの水泳大会になりました。

写真は一年生の輪くぐりー



<島で生きる～地域の方から教わります～>

カヤックの楽しさだけでなく、海に落ちてしまった時の助かる方法を体験し、地域の方から学ぶ様子から、「島で生きること」を大人から子どもへ伝えていくという、「眞の教育の姿」を感じることでした。



<学び～硫黄島ならではの形～>

硫黄島では村教委員会の協力によりネット環境が充実しています。これにより、普段の授業に加えて、鹿児島大学と連携した授業や、南日本新聞のよむのび教室をテレビ会議を使って実施しており、専門家から学んだり、竹島・黒島ともつながったり、幅広い形で子どもたちは授業に励んでいます。

美術の研究授業では、中学生全員で硫黄島をテーマにした作品作りを取り組みました。この授業では、小中の先生方で授業参観したり意見交換することで、授業力の向上も図りました。子どもも教師も授業に頑張っています！



体育館清掃～保護者の方々にも頑張ってもらいました

7月7日に児童生徒、保護者が集まって体育館に日頃の感謝の気持ちをこめて、除草や道具整理等をしました。美しく整頓された倉庫、遊びやすい遊具周辺になりました。子どもたちの気持ちも晴れ晴れです。



祝！**金賞**15年連続！



夏の祭典で頑張り会場にジャンベのリズムを響かせて感動を呼び、**金賞**を頂きました！

HPには、他の写真も掲載しております。<http://www.mishimamura-sch.jp/mishimakko/>

<令和元年7月 子どもたちの姿>

よむのび教室：新聞についての学び

研究授業：硫黄島ラッピング

遠隔授業：竹島・片泊とTV会議システム授業



遠隔授業：道徳や新聞形式の発表方法など様々な学習

奉仕作業：体育館およびその周辺を美しくしました！



ジャンベ練習：夏の祭典15年連続金賞を目指して！→金賞受賞（竹島中も金賞！）



水泳大会：自分の目標を超えようとする姿やチームで競う姿に笑顔があふれました。



カヤック体験：海の楽しみ方を学びました。大町さんから教わりました。

着衣水泳体験：海での浮かび方、自分の身は自分で守ることを学びました。

